



## いま、倉橋と出会う 8

倉橋惣三（一八八二—一九五五）は子ども・保育研究の先駆者であり、日本の就学前教育における遊び児童中心主義を確立したといわれる。主著書に『幼稚園雑草』『就学前の教育』『幼稚園真諦』『子供讃歌』などがある。大正期から戦後にかけて、本誌の編集主幹を長く務めた。没後五十五年を迎える今年、特集「いま、倉橋と出会う」を企画した。倉橋の珠玉の言葉や一節を手がかりに、身近な保育実践を振り返り、現代の保育観を問いつつ機会にしたい。倉橋と同時代に生きた研究者、保育者へのインタビューも紹介する。

### いきいきしさ

子どもの友となるに、一番必要なものはいきいきしさである。必要というよりも、いきいきしさなくして子どもの傍にあるは罪悪である。子どもの最も求めている生命を与えず、子どもの生命そのものを鈍らせずにおかないからである。

あなたの目、あなたの声、あなたの動作、それが常にいきいきしていなければならぬのは素より、あなたの感じ方、考え方、欲し方のすべてが、常にいきいきしているものでなければならぬ。どんな美しい感情、正しい思想、強い性格でも、いきいきしさを欠いては、子どもの傍に何の意義をも有しない。

鈍いものは死滅に近いものである。一刻一刻に子どもの心を蝕むしばみ害わずにいない。いきいきしさの抜けた鈍い心、子どもの傍では、このくらい存在の余地を許されないものはない。